

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：17301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2013

課題番号：21520194

研究課題名(和文) 中世小説の生成発展過程の研究 伝本・説話・挿絵を中心に

研究課題名(英文) Study on birth and developmental process of the medieval tales, especially on legacy of books, narratives, and illustrations

研究代表者

勝俣 隆 (KATSUMATA, Takashi)

長崎大学・教育学部・教授

研究者番号：70141934

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、内外の中世小説の伝本を閲覧し、書誌学的調査を行い、資料を多数入手した。また、中世小説の挿絵と本文の関係について考察した。入手した伝本の中で優れたものは、ライデン民族学博物館所蔵『貴船の本地』の翻刻と解題のような形で公にした。説話では、七夕・羽衣等と中世小説の関係を考察した。特に、日本文学で、人間と動物の結婚についての法則を論じたものは意義がある。さらに、黒田日出男氏のコード論を利用して、渋川版における「遠山」のコードを分析した。最後に、まとめとして、中世小説の伝本が、海外に所蔵される経緯について論じた。

研究成果の概要(英文)：I could investigate a lot of rare books of medieval tales in Japan and foreign countries, and performed bibliographical researches in order to obtain a number of documents and materials. I have considered the relationship between the texts and illustrations of medieval tales. I was able to reprint and bibliographical introduction such as "Kibune no Honji" in Leiden Ethnographic Museum collection. I have considered the relationship between the medieval tales and the narratives of the "Tanabata", "Hagoromo" and so on. I have considered the law on marriage of humans and animals in Japanese literature. By using the theory of code which was provided by Kuroda Hideo, I analyzed the code of "Tooyama" in the medieval tales which were published by Shibukawa Seimon. I have considered why the foreign countries have possessed many documents and rare books of Japanese medieval tales.

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：中世小説 御伽草子 室町物語 挿絵 本文 説話 伝本

1. 研究開始当初の背景

本研究が開始された当初、日本及び海外の大学・図書館・美術館・博物館等が所蔵する中世小説（御伽草子・室町物語）については、まだ調査が進んでいない地点が幾つか存在したので、その調査を行い、伝本の実態を明らかにする必要がある。

中世小説の本文と挿絵の關係に就いては、長年取り組んできたが、コード論などを利用して、多面的な考察をする必要に迫られていた。

七夕伝説を初めとして、多くの説話が中世小説の生成にどのように関わってきたかを明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、国内外に所蔵される中世小説の伝本を、調査・撮影・複写・収集し、他の伝本と比較校合することで、伝本系統を推定することを第一の目的とする。第二に、本文と挿絵の両面で、精緻な観察と比較校合を行い、諸本の影響關係・書承關係を明らかにすることを目的とする。第三に、中世小説の生成発展過程を明らかにするために、説話の面で、作品が、どういう過程を経て発展してきたかを究明することを目的とする。以上を踏まえて、総合的に、中世小説が誕生し、変成した過程をダイナミックに裏付けることを本研究の目的とする。

3. 研究の方法

第一の目的を達成するために、国内・海外の所蔵機関へ出かけて調査・撮影・資料収集・複写等を行った。

第二の目的のために、調査・収集した伝本を比較校合し、伝本の優劣・新旧を判定した。従来、アナログで撮影したものを、デジタル化する作業も必要であった。研究の比較的進んだ作品から、校本を作り、優劣を判定し、さらに、挿絵と本文の關係について、考察した。

第三の目的達成のために、説話の面で、作品が、どういう過程を経て発展してきたかを究明するに必要な関連した書籍等の購入を行った。勿論、中世小説に関する参考資料・論考等の文献複写にも努めた（その他・複写費）。その購入した書籍や複写した論文等を参考にして、自ら収集した伝本との比較や考察を行い、説話の面で、中世小説が、どのように生成されてきたかを考察した。

その後で、研究の進んだ作品から順次、解題を付けて伝本を紹介したり、挿絵と本文の關係、説話との關係についての論考を発表したりした。

最終的に、中世小説の生成発展の過程を、具体的に跡付けた。

4. 研究成果

本研究では、次の諸点で成果があったと考える。

中世小説の伝本について、多数のものを閲覧し、書誌学的調査を行うことが出来たこと。東大・フランス国立・ソウル大については、不完全ながら、伝本の書誌調査を報告できたこと（国内・国外の調査研究旅費）。閲覧を許可された伝本のうち、書誌学的・文学的（特に本文・内容）・美術的（装丁・挿絵等）価値の高い伝本について、その本文と挿絵を、自ら写真撮影、あるいは、撮影依頼により行い、資料を多数入手出来たこと（複写費・印刷費等）。

国内のみならず、海外の大学・博物館・美術館・図書館等に所蔵される中世小説の閲覧が行えて、広範囲に網羅的な伝本調査・資料収集が行えたこと（外国旅費・複写費・印刷費）。

外国の調査に当たっては、中国では、中国人の留学生、オランダ・ベルギーでは、それぞれオランダとベルギーの留学生が、フランスもベルギーの留学生が、韓国は韓国の留学生が、案内や通訳、あるいは、調査の補助をしてくれて、スムーズに研究が遂行できたことに示されるように、日頃の留学生との交流がこういった海外の調査ではいかに有効かを改めて認識できたこと。外国の訪問先の担当者という知己を得て、帰国後もメールのやり取り等を通して、翻刻の依頼や情報交換等を通じ、様々な便宜を得られたこと。

閲覧出来た伝本の中から、翻刻し学界に紹介するにたるものを、許可を得て、解題を付けて活字化できたこと。特に、ライデン民族学博物館所蔵の『貴船の本地』は、シーボルトが持ち帰ったことは分かっていたが、今まで国文学者の調査の手は及んで

なかったのに、その意味で意義がある。また、本文・挿絵ともに、他本との違いが大きい点も注目される。同じく『たなばた』は、長年、中世小説『七夕』の研究をしてきた筆者にとって、やはり、価値ある一本と言える。

今回は、中世小説の源流の一つでもある説話の中で、七夕・羽衣・柘枝などの伝説が、中世小説とどう関わるのかを示すために、それらの伝説を分析した論考も加えたこと。これらは、中世小説『七夕』『あめわかみこ』『瓜子姫』『羽衣物語絵巻』『おもかげ物語』等と関わりを持つ点で、意義ある物と考える。

川を流れてくる桃や瓜、さらに扇などの意味を分析し、男女を結び付けたり、異郷からの訪問であることを示す意味があることを論じたことも、その成果の一つと考える。

ジャンルを問わず、日本文学では、男女が出逢うには、姿形が同一の種類であることが必要で、動物が動物のままなら人間とは結婚できないこと、また、人間の姿をしていても、何かの機会に、その動物の正体が露見すれば、夫婦生活は破綻することなどの法則があることを論じたことも、中世小説『あま物語』『鶴の草紙』『貴船の本地』などの理解に不可欠であることを示せたこと。

黒田日出男氏のコード論を利用して、「遠山」というコードが、渋川版の中でどう利用されているか分析できたこと。

海外に所蔵される奈良絵本・絵巻等の中世小説（御伽草子）関係の伝本が、なぜ海外に所蔵されるようになったのか、其の経緯について論じることが出来たこと。

以上を総合し、中世小説の研究に関して、現在どういう問題があるか、考察を加える事が出来たこと。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 16 件)

勝俣隆、「ライデン国立民族学博物館蔵『たなばた』の翻刻並びに解題」(『長崎大学教育学部紀要. 人文科学』八十号、2014年3月、査読なし、pp.1-15)

勝俣隆、「ソウル国立大学図書館所蔵中世小説関係古典籍書誌調査報告」(長崎大学『教育実践総合センター紀要』第十三号、2014年3月) 査読なし、pp.153-162

勝俣隆、「説経節『さんせう大夫』『小栗判官』において、三男の三郎は何故悪役か」(『国語と教育』三十八号、長崎大学国語国文学会、2013年12月) 査読なし、pp.18-28

勝俣隆、原田真弓、「ライデン国立民族学博物館蔵『きぶねの本地』の翻刻並びに解題」(『長崎大学教育学部紀要. 人文科学』七十九号、2013年3月。翻刻は原田真弓、解題は勝俣隆、全体の監修は勝俣隆) 査読なし、pp.1-17

勝俣隆、「フランス国立図書館所蔵中世小説関係古典籍書誌調査報告 上 長崎大学『教育実践総合センター紀要』第十二号、平成2013年3月) 査読なし、213-222

勝俣隆、「多久市郷土資料館蔵『小式部』の翻刻並びに解題」(『長崎大学教育学部紀要. 人文科学』七十八号、2012年3月) 査読なし、pp.1-15

勝俣隆、「シンポジウム 海外に所蔵される奈良絵本・絵巻等を中心とした御伽草子関係資料について、説話文学会二〇一〇年]九月例会シンポジウム 海外所蔵の絵巻・絵入り本、『説話文学研究』46号、2011年7月) 査読あり、pp.124-133

勝俣隆、「イリノイ州立大学附属図書館蔵『蓬菜の巻物』の翻刻並びに解題」(長崎

大学教育学部紀要 人文科学)七十七号、2011年3月)査読なし、pp.1-11. 但し、九州地区国立大学間連携教育系・文系論文集(2011年)においては、審査を受け、査読ありとなった。

勝俣隆、「川の流れと流れてくるもの」についての文学的意味に関する一考察—男女を結び付けるもの、並びに異郷からの来訪の通路」(『国語と教育』三十五号、2010年12月)査読なし、pp.13-23

勝俣隆、「七夕用語「梶の葉」の王朝文学における成立と、その後の流布と継承」(『調査研究報告』第三十一号、人間文化研究機構国文学研究資料館調査収集事業部、2010年3月)査読あり、pp.1-23

勝俣隆、「お伽草子渋川版の挿絵における「遠山」のコードに関する一考察」(長崎大学教育学部紀要 人文科学)七十六号、2010年3月)査読なし、pp.1-15

勝俣隆、「昔話「桃太郎」の諸問題(「桃太郎」は「小さ子」か、桃と団子の意味等)に関する一考察」(『言語と文化』七巻、2010年3月)査読なし、pp.9-15

勝俣隆、「東京大学大学院人文社会研究科国文学研究室蔵の中世小説を中心とした古典籍の書誌調査報告(その1)」(長崎大学『教育実践総合センター紀要』第八号、2009年3月)査読なし、pp.153-162

勝俣隆、「東京大学国文学研究室蔵『あた物語』の翻刻並びに解題」(『長崎大学教育学部紀要 人文科学』七十五号、2009年3月)

査読なし、pp.1-13

勝俣隆、「特集・古典キャラクターの展開 美男美女の悲劇—御伽草子研究におけるキャラクター論」(『アジア遊学』百十八号、勉誠出版、2009年1月)査読なし、pp.8-16

勝俣隆、「天人のキャラクターを通してみた『あめわかみこ(七夕)』の構造」(『国語と教育』(長崎大学国語国文学会、三十

三号、2008年12月)査読なし、pp.11-22

[学会発表](計 2 件)

説話文学会、第146回例会 シンポジウム 「海外所蔵の絵巻・絵入り本」 日時 : 2010年10月2日(土)午後2時~5時30分、 会場 : 学習院女子大学 司会 : 石川透(慶應大学)、 講演 : 小林健二(国文学研究資料館) 「『太平記』を題材とした絵巻・絵本—スパンサーコレクション蔵『呉越物語』を中心に—」、高岸輝(東京工業大学) 「海外所蔵の室町土佐派絵巻について」、日沖敦子(金城学院大学非常勤講師) 「在米の中将姫物語について—享受の諸相—」 に対するコメント : **勝俣隆**、(長崎大学) (コメントの内容は、雑誌論文 に掲載)

勝俣隆、国文学研究資料館基幹研究「王朝文学の流布と継承」研究会における研究発表。日時 2009年12月25日 金会場 国文学研究資料館(立川市)。発表題目 「王朝文学の流布と継承—七夕伝説の受容と変遷を通して—」

[図書](計 6 件)

今西祐一郎。人間文化研究機構国文学研究資料館 編 『古典籍研究ガイダンス = Guidance of how to study early Japanese books : 王朝文学をよむために』、笠間書院、2012年6月)(共著) **勝俣隆**担当は「作り物語から御伽草子へ—『狭衣物語』と『狭衣の草子』並びに天稚御子」166~175頁、全445頁 篠田知和基 『神話・象徴・図像』楽瑠書院、2012年3月、共著) **勝俣隆**担当は、「柘枝(つみのえ)伝説の原型を探る」47~64頁)全461頁

篠田知和基『神話・象徴・図像』楽瑯書院、2011年12月、共著)勝俣隆担当は、「羽衣伝説と昴星」55～73頁)全751頁

小林健二『基幹研究「王朝文学の流布と継承」』人間文化研究機構国文学研究資料館基幹研究「王朝文学の流布と継承」編集部編。2011年3月。共著)勝俣隆担当は、「七夕用語「梶の葉」の王朝文学における成立と、その後の流布と継承」323～342頁)全556頁

篠田知和基『愛の神話学』楽瑯書院、2011年3月、共著。勝俣隆担当は、「日本の神話・伝説・昔話・御伽草子に通底する男女の出会いと別れの基本原理」39～58頁)全526頁

篠田知和基 他『神話・象徴・言語』楽瑯書院、2010年12月、共著。勝俣隆担当は、「瓜子姫と七夕伝説」93～110頁)全560頁

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

勝俣 隆 (KATSUMATA, Takashi)
長崎大学・教育学部・教授
研究者番号：70141934

(2) 研究分担者
(なし)

研究者番号：

(3) 連携研究者
(なし)

研究者番号：